

編集後記

折しも日本透析医会では種々の難しいハードルをいくつも越えながら、公益社団法人への移行を目指して、組織内の改革や諸活動の見直し、諸規則の改訂などに追われる重要な時期にあります。しかるに、本誌の前号では、2代目会長の平澤由平先生を追悼する文章（山崎会長より寄稿）が掲載されたばかりであり、今号では鈴木満先生を追悼する文章を掲載する事態となりました。先生を存じ上げる身にとっては、正に驚きと残念の知らせでありました。先生は当会の専務理事を務められて我々を強力に指導して下さい、さらには日本医師会の理事をも務められ、同時に私生活では藤沢周平の世界を追い求める好人物でありました。安らかなご冥福をお祈り申し上げます。

さて本誌の今号でも「医会シンポジウムの記録」、「医療安全対策」、「実態調査」、「臨床と研究」、「公募助成研究の成果」、各県での「特別講演の抄録」、「ひとりごと」、「たより」など盛り沢山で、なおかつ質の高い、内容の濃い記事をお届けいたします。

折しも国内では内閣の存亡がかかった予算国会が進行しており、国外ではチュニジア、エジプトの政権が市民デモにより短期間で崩壊し、さらにリビアの政権も追い詰められた状況にあります。ついこの間までは誰もが想定もできなかった事態が目の前に展開しています。追い打ちをかけるようにニュージーランドでは大地震が発生し、邦人を含めた多数の犠牲者が出ております。

このような社会情勢の中にあっても、日本透析医会は着実にその歩みを進めるべきでありましょうし、同時に「井の中の蛙」にならないように心すべきでありましょう。

広報副委員長 鈴木正司

〈追記〉

本誌を作成中の末期になって、3月11日に東日本大震災が発生しました。

地震とその後の大津波により2万名を超える死亡・行方不明者が報告されており、避難された方々も20万とも30万名とも言われております。

さらに福島原子力発電所の被災は、わが国ではこれまで経験のない深刻な事態に発展しており、未だに収束の目途すら立っておりません。

災害時の透析治療を確実に提供しようとする日本透析医会の緊急時システムがフル回転しておりますが、今回の様な未曾有な規模の大災害に対してどの程度に機能したのかについては、事態が落ち着いた時点で評価してみる必要はあるでしょう。

いずれにしても亡くなられた方々に対するご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に対しての心からのお見舞いを申し上げます。